

親から子へ伝えられる茶生産技術

～人と人とのネットワークを広げ、豊橋茶のブランド化を図っていきたい～

豊橋市 岡本広敏（おかもとひろとし）さん
工芸作物（茶）

【平成22年5月13日掲載】

豊橋市で茶の生産をし、平成20年に県茶品評会 普通煎茶の部で、創業者の祖父・儉一さん、二代目の父・広巳さんに続いて「農林水産大臣賞」を受賞した岡本広敏さん（写真1、2）を紹介します。

1 はじめに

広敏さんが就農したのは、平成18年の20才の時でした。農業高校卒業後、静岡県にある（独）野菜・茶業試験場で2年間研修を受け、就農されました。小学、中学生の頃から、茶業の手伝いをして、将来、跡を継ぐのには何の迷いもなかったそうです。

広敏さんは、静岡県茶手揉保存会認定の茶手揉技術「教師補」の資格を持ち、茶に対する研究心は人一倍持っています。

茶の作付面積は4.5haと県内でも最大規模で、集積された茶畑の真ん中に家と工場があります。品種は「やぶきた」を中心に約8品種、父、母と3人で生産・加工・販売をされています。

2 現在の取組

広敏さんの担当は、乗用摘採機による収穫や整枝及び防除作業です。収穫作業は一番茶が4月20日頃から5月15日まで、二番茶が6月20日から6月30日まで、三番茶が7月20日から8月上旬まで行い、時期によって整枝や防除作業が行われます。父は主に工場での製茶作業を分担しています（写真3）。

茶の出荷先は、市場を中心に、問屋、直売となっていますが、ここ2～3年、茶の消費低迷により市場価格が下落しており、量より質が求められています。このため最近では、被覆資材を使った「かぶせ茶」に取り組み始めたそうです。これにより茶の青みを増すなど、品質向上を図っています。



写真1 岡本広敏さん（右）
広巳さん（父：左）



写真2 受賞記念ポスター

3 将来の夢

広敏さんに将来の夢をお聞きしたところ、「市場価格低迷の対策として直売の割合を増やしていきたい。また豊橋全体の茶農家で豊橋茶のブランド化を図っていきたい。4Hクラブ活動に力を入れ、人と人のネットワークを広げ販路を拡大したい。試験場の研修で知り合った、九州の友人とも情報交換をして今後に活かしていきたい。」と語っていただきました。



執筆：農業経営課

取材協力：東三河農林水産事務所農業改良普及課